

絵本の多様な魅力紹介

ちひろ美術館 常任顧問・松本猛さん

安曇野ちひろ美術館常任顧問で美術・絵本評論家の松本猛さん(73)が『絵本とは何か』を岩波書店から出版した。東京芸術大学在学中に「絵本論」を執筆して以降、半世紀にわたって絵本文化に関わり続けた集大成として「大人にこそ知ってもらいたい」絵本の魅力や絵本観、未来に託す絵本の可能性を書き下ろした。(有賀文香)

本を出版研究の集大成

▽絵本とは何か▽絵 冊ものの絵本を取り上げ、本への表現▽絵本の歴史 ながら「視覚表現と言語表現による総合芸術」としての絵本の多様性を論じている。王朝の『死者の書』以来3500年にわたる絵本の歴史をひもとく。国内外の二百数十冊もの絵本を取り上げ、



『絵本とは何か』を手にする松本さん

知ってもらおうことが、絵本の未来の鍵を握る一との思いを込めた。松本さんは世界で最初の絵本専門美術館「いわさきちひろ絵本美術館」を昭和52(1977)年に開館。母で絵本作家の故いわさきちひろや世界の絵本画家の作品を発信し続けてきた。当初は絵本を美術作品とみなす人が少なく、絵本学会の立ち上げにも多くの苦労があったが、価値を粘り強く語り続ける中で社会が変化していくのを感じたという。

本書は入念な調査研究を経て構想から7年をかけて完成。今後は理論から実践に重心を移したいとし「多くの優れた絵本を世に送り出していきたい」と話している。221頁、2500円。